第百五十三號

NAMBEI SHIMPO

23 de Setembro de 193

サンパウロ市ピレスレー地番号
モッタ 三八一
發行所 南米新報社
廣告料 一年 二ミル
廣告料 一段 五ミル

言論

在留民を愚弄する者

官製中央日本人會に就て

△

既に本欄に於て屢々論じたる如く、おほよそ在留民の自治團體は在留民自體の自治精神から生るべきで、決して官邊の差し金やお手盛りで製造される筋合のものではない、況んや出先役人共が一時の功名手柄を誇る爲めの『一夜城式中央日本人會』なんかに至つては抑々最初から筋道が通つて居らぬ事は今更説明を要しない。

然も『聖市日會』の如きは如何に人材拂底とは言へその助言を仰ぐさへも御門違ひの出先役人に會長の椅子を獻じ、唯々諾々として木ツ葉役人に宰配を振らせて恥無き連中であればこそ本月十四、十五の兩日に亘る總領事館指名の各地日本人會代表者會議に於て、マンマと總領事館側から一杯喰はされて唖然自失と云ふマヌケさ加減である。

△

吾等は『聖市日會』側のマヌケ振りを觀て其の余りに『人の好き』を哀れに思ふものであると同時に、總領事館側の老獪にして如何にも在留民を愚弄してかゝりたる態度に癪厭の情を禁じ得ないものである。

即ち聖市日會が言ふ如く今次の代表者會議參列者は全伯四百五十以上の日本人會中僅かに四十余名に限り、是等は總領事館の指名により集會したるもの、みで、決して之れを以て全伯各地日本人會を代表せしめたりと認むる事能はず、且つ今次の會合を以て總領事館ゞ單なる『意見の交換』に過ぎざるが如く言ひ振らして置き乍ら、俄にブラジル中央日本人會の創立總會に早變りせしめたる如きは、悉し二十万同胞の民意を蹂躙し任留民を愚弄したるものである。

△

世話も過ぎれば干渉となる、その干渉を受けて平氣で居られるさへ不思議なるに干渉されるを以て無上の光榮を感じる程のお芽出度いものには、更に干渉を越えた『愚弄』に對する良心、反撥はない、干渉をされるを以て光榮と爲し愚弄されて尚且つ默從して居るやうな奴は余程の鈍感か奴隷根性の持主で少くとも日本男兒の眞骨頂を具へて居るものとは言ひ得ない。

△

此頃の總領事、領事は隨分どうかして居る、巷にはジュケリー病院行きの邦人が最近メッキリ増えたと云ふことだが領事の中にはジュケリーに送らねばならぬ程の『上りもの』が有るやうだ、吾等は之を稱して『綺太ムソリニ模倣狂』といふ、言換れば『統制病』だ勿論この統制と云ふことも人物と時と所に依つては必要であり爲めに國家社會を稗益する場合尠なしとしないが、我が在伯邦人社會の場合然もタカが知れた領事風情からこの二十萬の人民が統制されて、中には伯國官憲の權限に屬する小學校教師の任免に關する事、或は如何なる場合にも常に絶對獨立不偏の立場に在るべき新聞までが、彼等の手に依つて統制指導されやうなどとは到底普通人間の常識では考へ得られないことである、眞人間の常識では到底考へられない事を平氣でやる彼等の勇氣は洵とに見上げたものでは有るが、お氣の毒にも夫れは『ジュケリーでのみ大向ふの喝采を博し得る』であらう氣粉れ蠻勇に過ぎないのだ。

賢明な在留民社會は斷じて是等旅藝人の氣紛れ蠻勇や功名心の對象たることに甘んじてはならぬ、且つ二十萬同胞を網羅する全伯日本人會と云ふ大業が僅かに官選一部の者に依つて自由勝手にさるべきではなく、土地の事はどこまでも地元の者自身が自らを治むる精神の下に萬機は須らく公論に依つて決せらるべきである。

所謂監獄ものにも恥かしい事

△

たとへ過誤を犯して身は厭ふべき刑務所に囚はれの者と雖も、日本人は矢張り日本人だ今次の日支事變が一度び獄窓を越えて傳へられるや、全國五十二の刑務所に服役する囚人たちは一人殘らず愛國の至情に燃え立ち、自己の勞務報酬を割いて國防の爲めに獻金したいと申し出づもの數を知らず、續々として各刑務所長から司法省行刑局に向つて是れが取扱方について問合せが殺倒してゐる、これには司法當局もいたく感激し之等の人々の獻金を取次ぐことには、何等の躊躇するものではないが去りとて、零細な彼等の勞務の報酬積立金は將來出所のあかつきに、唯一の更生資金となるものなので之れを獻金に充てることは考へものだと云ふので、これらの獻金申出者に對して仮令特に勞務時間を延長して夜業をなさしめその勞務報酬（賃金）を取りまとめて獻金させることになつたと最近の東京便は報じてゐる、そして何處の刑務所でも受刑者は擧つて我れも〳〵と獻金を申出て居るとの事である。

△

事變勃發以來國民の熱誠なる愛國心が色々な方面に顯はれて、涙ぐましきまで美談の花を咲かせて居るがおよそ監獄ものと言へば世をすね國家を呪ひたる者の如く世間から跳められて來た、その當人たちから斯樣な愛國美談を聞かされるといふは、實に珍らしいことで聽く者の感激はまた格別である。

飜つて此のブラジルに於ける同胞の時局に對する愛國熱は如何であらうか、無論、熱誠溢れたる人々の國防獻金や運動に感心すべきものはあるが、全體から言へば數の無いこと甚だしいと隨所心ある人々は慨歎してゐるのも當然のことだ、是れを彼の『朝日』や『聖市日會』が發起して募集して居る國防獻金の成績について見るも、或は又領事館が取扱つた獻金高について觀るも、更に之れを當國以外の在外同胞集團地に於ける白熱した愛國運動のそれと比較して、その冷いこと眞劍さを欠いて居ること我が在伯同胞の如く甚だしきはない。

△

然も、それが年々七八十萬圓づゝ母國々庫の貴重な金を喰らつてゐるものであり、その數は今や二十萬と稱せらるゝ在外移民の大集團ではないか、補助々成と何かにつけ母國政府のお世話になりながら、今日の如き祖國有事の場合に當つても一向報國の赤心が燃え上らず依然として『俺は俺だ』と云ふ心構えで冷たくなつて居るとは、何んたる事ぞや、二十萬のカベサを集めてもまだ飛行機一台すら買つて獻上するだけの金がとまらないとは眞とにノンテンヴエルゴンニヤと申すより外あるまい。

言ふまでもなく社會に對し祖國に對して立義獻身の感激無きものは正に亡國の民である、何んと言はれても已れさへよければ可い、金さへ儲け之れを蓄めさへすれば好いと云ふのが所謂日本民族の海外發展移住精神の凡てであるといふならば今日限り日本はブラジル移民を斷然廢止すべし、素より補助金の如きは余計なもの今後は一文も送つて貰はぬことである。

在伯同胞社會は宜ろしく前述母國に於ける『監獄もの』さへも有する愛國の純情に顧みて大に自ら慚るところが有つて然るべきであらう。

清 東麒麟 鳳
GOTO & CIA
Caixa 528-S.PAULO

赤化に對し死鬪する國境回教地帶

是れぞ東洋平和の鍵

愈々日本の天職達成の秋

【東京發】昭和十一年十一月二十五日我が日本はドイツとの間に防共協定を結んだ、此の當時自由主義者の一部は此の協定をして日本のファッショ化だと非難し大いに此の協定をけなした事はまだ記憶に新たなる事だと思ふ。

◇

然しよく考へて見ると此の防共協定則ち東京とベルリンとを結ぶ直線を見る時その南側をゆるやかにカーブしてゐる國々はすべて回教徒國である、東京の側から列擧すれば蒙古、甘粛、青海、西藏、新疆、アフガニスタン及び露領の自治共和國、ベハシヤ、イライ、トルコと一つの例外なく回教徒である、此は露支の國境線に添ふてベルリンに通じてゐる。

◇

此の回教なるものがどんなに赤化の害毒を受け惱まされてゐるかは前述の滿洲國回教徒代表の歡迎會の席上に於て發表した腹藏なき意見に徴するもうなづける事だと思ふ回教なるものは政治と宗教とは決して分離するものでない各國の政治と宗教が別箇のものであると違つて回教徒の國は宗教の爲の政治であり宗教有つての個人だし全體の生活も此の宗教の規範に依る政治宗教にかくれて目ざましい勢力で赤化が發展してゐる之を防ぐにはどうしても此の防共協定線の確保が必要であるさうする事に依つてロシヤに對し完全なる包圍陣形になる支那に對する赤ソの陸上連絡線の中斷にもなり又被壓迫民族を赤化から救ふ道にもなる。

◇

斯言ふ事は單なる政治的意味合からばかり成立するものでなく經濟資源の有無をも研究しなければならないだらうが之等の地域は非常な地下資源の豐富な所である斯うした見方は余りに回教徒なるものを買かぶつてゐると思はるかも知れないがよく別記の滿洲國回教徒代表の歡迎會の席上に於て發表した腹藏なき意見に徴するもうなづける事だと思ふ回教なるものは政治と宗教とは決して分離するものでない各國の政治と宗教が別箇のものであると違つて回教徒の國は宗教の爲の政治であり宗教有つての個人だし全體の生活も此の宗教の規範に依る政治宗教が此處に一つあるそれは共產主義である我々が共產主義を排撃しつゝ有ると共に西洋でも又排撃しつゝあるのであるがその排撃する理由とする處は『コーラン經』（回教徒のバイブル）は、專ら造物を拜し敬神を主とし先聖、先祖を尊ぶことを講ず、其の說くところ一として、共產主義と通ずることなく總て反對なり

一　回教の共產主義より受ける所の苦惱の最も甚しきものは露西亞に於ける（白俄）白系露人回教徒なり、其他すべて共產主義の行はゝ、ところ均しく其苦を免かれず、これ有識の回教徒の等しく之を知るところなり。

一　共產主義は宗教を滅絶するを以て目的と爲す回々教は世界宗教の一にして之に屬する教徒は、一飲一食と雖も隨（私）意にする能はず、故に教、存すれば身、存し、教亡ぶれば又身も亡ぶ、是れ共產主義と並立する能はざる所以なり、互に仇讐の如くに觀るは乃ち自然の現象なり。

併し此處に幸な事は東洋の一角には日本といふ强國あり、我々の同志であり兄である、我々の宗教を伸ばすのは此の兄貴の力に依るのである、此度の北支への出兵も、赤化支那を救はんが爲の出兵であるから神アーラはよく日本に味方し我等に味方する事だらう、他日滿洲に歸つたら殊に北支には回教徒の人々が澤山居るから此等の人々によく共產主義の話をして此れを擊退する樣話してやる積りである、そして本富の日滿支三國人の力强い握手へと進めたい』

と力說した。次いで蘭錦標少將立ち熱烈なる語調で左の如く話つた

ロシヤが革命成就の後私はマルクス主義を簡單ではあるが研究したそれに依つて一つの大きな惱みにぶつかつた、それは共產主義は一種の無神論であり家族主義を否認し倫理をわきまへず道德にそれた事を行なひ宗教を認めないのは勿論古の聖賢といふものを尊敬しない主義である、そうして人を使ふに牛か馬の樣に取扱ふ、彼の共產主義の成功の寺院を燒く各學校の教師僧侶を殺す、又先代の聖賢の傳記の書物を焚くのである。彼等は智識のない子供みた樣な人間を利用して思ふ存分勝手なまねをするのである。人類の禍は未曾有のひどい目に遭ふのであるから本當に人間らしき血と涙と情の有る者は悲しまずには居られない況んや私は回教徒であり尙私の先祖は傳教を業とする人であつた。想ふに我回教民族は漢民族と違つて漢民族は共產主義に對しては恨みがあると雖も漢民族は確定した宗教がない爲に信仰を自由に換へる事が出來る、之に加へて近來儒者が辭章を尙び考據を重んずる事に依つてもう既に儒道學者の本を失つて居る。回教民族は生活のどういふ小さな事でも教の範圍内に無いものはない飲食が極く小さな例へば或人が强て回教徒にブタ肉を食はせ樣とするとそこに全體の回教徒は必ず死を以て戰ふのである、昔甘肅省の回教民族と漢民族の悲慘なる爭があつたのは皆極く小さな事より恥辱を受けたからである、此の民族は教の存亡に從つて存亡するのである、然しながら若し一旦共產主義が侵入して來れば我が民族は當然生存が出來ないのであるだからロシヤ共產の成功に伴ふて回教徒民族の大多數は死んだ尙外の教徒は或は日本或は支那に逃亡して居る、此を思ふに及んで憤慨極りなくむしろ恥辱を受けて生きてゐるよりは死を選んだ方がよいとまで思はれるそこで私は急いで回教の有力者を歷訪し共產主義に對する防止の方法を研究した盛訪し共產の侵略方法は二つある、一つは思想の侵略であり他の一つは軍事的侵略である。

防共地帶の設置を叫ぶ滿洲國代表

回教は全く共產主義に反對

【東京發】東洋回教諸民族は歐洲諸國の支配下に伸吟し殊に中亞、露國内の回教徒、露支の國境一帶及滿洲の回教徒等は共產主義の爲におびやかされ殺害され色々な憂目を見せられてゐる之等回教徒は日本の眞に賴もしきを知り東亞の盟主なる日本の眞の姿文化を見むものと陸續として各地から來朝しよく日本を認識しやうといふ氣運が非常に濃厚である時たま〳〵滿洲國回教徒一行が今回來朝したので國際反共聯盟では之を大歡迎したがその節一行の代表張德純氏及錦標氏は次の如く話つた

『我等の宗教の大敵が此處に一つあるそれは共產主義を採用し、又そういふことは昔から慣れてゐたのでどの家の穀倉にも凶年に處する爲めの貯へとして澤山穀物が打捨せられずにそのまゝ積んであつたのである、然るに此所に當時なほ資本主義を敵視せるポリシエビキがやつて來てこの貯へを見つけ、こいつは正しく一種の資本だ、否、もつとうまいことには喰べられる資本だと言ふて山なす農民の貯へも一瞬にして當やチエカ赤軍の口を糊するため都會へ搬出されて了つた。そこへもつてきて一九二一年の大凶作である。若しあの時政府が農民の貯を徵發强收しなかつたなら、饑饉の悲劇もあれほど大きくならずに濟んだのであらう。

△

茲で諸君に物語つたとて到底信じて貰へ相もないこの恐るべき破局に直面しては、他に施す策がない、どうしても農民をして再び耕作地積の増加に關心を有つて貰ふ必要が生じ、ボリシエビズムは終に農民に降伏した。其結果として無法な强制徵發は死刑を以て禁ぜられ、レーニンは一つの新經濟政策所謂N・E・Pを宣言し、農民には欲するだけの土地の耕作が許可せられ、又收穫物は沒收せられる事なく凡べて自由に市場で賣ることを許され從來の徵發の代りに極めて僅少な

今日の露西亞を曝く

現世の生地獄

ハンス・ハルム述

【承前】

勿論かゝる災厄の勃發については、獨りソヴエート政府のみに責任があるの譯ではない。一九二一年はヨーロッパ到る所旱魃がひどかつたのである。豐年の幾年か後に來る凶作に對しては十分に用意を怠らず、又そういふことには昔から慣れてゐたのでどの家の穀倉にも凶年に處する爲めの貯へとして澤山穀物が打捨せられずにそのまゝ積んであつたのである、然るに此所に當時なほ資本主義を敵視せるポリシエビキがやつて來てこの貯へを見つけ、こいつは正しく一種の資本だ、否、もつとうまいことには喰べられる資本だと言ふて山なす農民の貯へも一瞬にして當やチエカ赤軍の口を糊するため都會へ搬出されて了つた。そこへもつてきて一九二一年の大凶作である。若しあの時政府が農民の貯を徵發强收しなかつたなら、饑饉の悲劇もあれほど大きくならずに濟んだのであらう。

△

茲で諸君に物語つたとて到底信じて貰へ相もないこの恐るべき破局に直面しては、他に施す策がない、どうしても農民をして再び耕作地積の増加に關心を有つて貰ふ必要が生じ、ボリシエビズムは終に農民に降伏した。其結果として無法な强制徵發は死刑を以て禁ぜられ、レーニンは一つの新經濟政策所謂N・E・Pを宣言し、農民には欲するだけの土地の耕作が許可せられ、又收穫物は沒收せられる事なく凡べて自由に市場で賣ることを許され從來の徵發の代りに極めて僅少な

Banco Especie de Yokohama, Ltd.
The Yokohama Specie Bank, Ltd
Rua da Candelaria No, 23
Caixa Postal, 380 - Rio de Janeiro

切り取つて手紙の表にはられたし

◆郷里送金
新令に基いて御申込に從ひ申請の上許可を得て御取扱ひ致します
法令によりまして唯今の處送金々額は一ケ月一人につき二コントス以内しか出來ません
送金は無手數料で御指圖通り御取計ひ致します

◆日本貨預金
當行内地各店の定期預金又は特別當座預金とせらるゝため御送金なさる場合は前項に準じて御取扱ひ致します
定期預金利息は現在年三分三厘の割合であります
當行各店發行圓貨其他の預金証書特別當座預金等は即日可成好い相場にて御買取伯貨にて御支拂ひ致します

◆伯貨預金
定期預金六ケ月以上利率當分年三分五厘の割であります
外に當座預金特別當座預金等御便宜御取扱ひ申上げます

横濱正金銀行
リオ・デ・ジヤネイロ支店

CASA TOZAN LTDA.
COMMISSARIOS
Phone : 2105 e 2106 - Endereço Teleg. "TOZAN"
Praca Maua, 25 - Caixa Postal, 911
SANTOS

珈琲コミッサリオ
カーザ東山

東山銀行部
伯貨定期預金
一ケ年 六歩

サンパウロ事務所
ルア・フロレンシオ・デ・アブレウ七四ーA
郵函 五二八 サンパウロ
電話 二一一六八五番
二一二九八一番

リンス事務所
アベニーダ ボルンタリオ
ロザリーノ シルバ一四七
郵函 一一番
電話 一四七

時評

英米は大戰化を避ける

【承前】第二に、支那への資本及軍需的物質の供給國たる英米獨露等が日本との大戰爭を敢てして迄支那の抗日を助けるとは思はれない、これは最近とも角日英兩國の對支協調交渉まで進められる機運にあつた程であるから、英とても勿論日支戰爭までを無暗に煽動するものとは考へられない、歐洲諸國の軍擴抗爭關係から見て英がそれ程對日挑戰的になれるとは思へない、中南支方面に於ける自己の利權確保と軍需品の賣込み上の掛け引から或る程度の煽動位はやつてゐるであらうが國運を賭して戰禍に捲き込まれる程の決意が英にあらうとは思はれず況んやアメリカをやである、そうすれば日本の海軍が支那の要港を封鎖すると同時に支那の經濟的抵抗力は忽ち持續性を喪滅するものと見て大過なからう

支那財政經濟の大混亂

第二に、もし列强の支持なしにこの際支那が全面的な戰闘を持續するとせば折角持ち堪へて來た弊制の改革もめちやくちやになり外からの借款は杜絶し公債は暴落して經濟界は大混乱に陥ることは必然である、新紙幣かどうやら持ち堪へてゐたのは全く外國借款と援助のおかげであるからその支柱が取り去られ、ば到底耐持力はあり得る筈はない況んや、あらゆる意味での經濟建設的推進力たる英米その他の海外諸國との連絡が遮斷される以上どうしても經濟的大混乱と軍用物資の缺乏とが惹き起されるものと見る外はない、もし最近の支那の所謂經濟建設が正常なる資本主義的、民族的發展であるものならまだしも抵抗力は强かつうが事實は買辨的性質のもの以上に殆ど發展してゐないのが現狀なのであるから外國の支持なしに自力で大戰爭を實行し得ることなどは全然考へられない

列强は調停に乘出さん

第四に、イギリスを中心とする列國が果していつ迄支那の戰爭的反抗を默認するか？ 現下の支那が二重三重に列國資本によつて縛りつけられてゐる以上いかに國民政府の少壯派が躍起となつても列國の默許なしには戰爭を續けることは不可能だ、ところが戰爭があまりに擴大されては、みすく支那の經濟的大混乱は必至なのであるから列國の投資對象はめちやくちやに破壞する心配がある、列國はその軍需品を賣り込むために國民政府の抗日抗爭意識を或る程度までは煽動する

事變週間ニュース

【十六日電報】

【東京發】駐屯軍司令部發表、平漢線の我が軍は十五日午後三時半天子山を占領又北拒馬河左岸に進出する部隊は同六時半宮村鎮より前岸に進出せり

△

【天津發】啄州平野に於ける敵の集團はいまなほ霸縣雄縣附近にあり、敗殘兵は南方及び西南方地帶二隊に分れ逃走してをり又敵の相等有力な大部隊は崑里河口（永清縣南方十六キロ）を行軍縱隊で退却中である

△

【北平發】我が空軍は午前七時ごろ保定の大爆擊敢行目下停車場その他各所に火災起り全市大動搖を來してゐる

△

【天津發】平漢線のわが部隊は多各莊より石樓村に向つて約一里進出、同方面の敵はわが攻擊に次第に退却しつゝあり

△

【北平發】十六日午前一時四十分軍司令部發表によると房山西方の我軍は午前十時山口（房山西方五キロ）を占領し東方の部隊は鄭各莊を占領、夫々引續き攻擊前進中、又良鄕、啄州方面では○○鎭を攻擊中。

△

【大同發】○○軍○○部隊は十三日大同に入城以來四日間に亘り市内の掃蕩を行つた結果、小銃彈五十万發手榴彈五千、山砲及び曰砲彈谷五百發その他兵器多數を發見鹵獲したがこれ等鹵獲品はトラック百台を要する程である

△

【東京發】各種の情報を綜合するに南支方面に於ける海面航行遮斷狀況は左の如くである

一航行遮斷實施以來南支一帶の海面に於て航行を遮斷した支那ジャンク船の數は相當數に達してゐるがこれ等の乘組員は全部これを放還してゐる、その内には機銃、小銃をもつて我に抵抗したものもあり或ひは夜陰に乘じてジャンク船の奪取を企てたものもある、之等は南支方面の海上に出沒して所謂海賊の類と見られてゐる

一目下航行遮斷狀況は頗る良好な成績をあげつゝあるが現在でも時々ジャンク船が沿岸に姿を現はすこともある、しかし支那汽船の如きは現在では全くその影を見せないが時々○○國の國旗を掲げた奇怪な汽船が出沒してゐる點は怡も○○に於て支那軍需工場が○○國の國旗を利用してゐるのと同一筆法と見られてゐる

一この嚴密なる航行遮斷の結果南支方面は物資の不足著るしく困却疲弊至らざるなしといふ有樣でこれを起因として支那の内面的抗爭が惹起されるのではないかと見られてゐる

【十七日電報】

【北平發】十七日午前五時○○根據地に待機中の我空襲部隊に第三次保定爆擊の命は下つた、午前五時半飛行場に銀翼を連ねた我精鋭は出發命令一下折からの朝霧を衝いて爆音勇ましく一氣に南方目指して飛出した今朝の爆擊には○○部隊長自ら編隊の陣頭に立ち第一線にあつて爆擊に向つたので將兵の意氣は彌が上にも昂り保定潰滅を目指す十數機は北支の空を覆つて旋風の如く保定を襲撃、昨夜の夜間爆擊の跡もなほ明瞭に識別される保定城内及び各停車場目懸けて爆彈投下、完全に爆擊の効果を收め午前七時頃一機の損傷もなく凱歌を擧げて原隊に歸還した

△

【北平發】○○部隊長自ら空襲部隊の先頭に立つて大擧爆擊を敢行したのは空軍始まつて以來のことで、保定空襲參加の各將士は何れも感激し命令された目標を完全に破壞するまでは歸らずとの悲壯な決意を以て出發、愈々爆擊開始となるや自ら最も危險なる後部座席についた○○部隊長は敵高射砲彈が機體眞近かに破裂する中を機體から乘出すやうな姿勢で爆擊の効果を確かめる、この冷靜なる行動には部下各將士は全く感激してゐる

△

【北平發】我が軍が平漢線を完全に遮斷したことにより敵の退路は全く斷たれ今や十萬の大軍は全く袋の鼠となり、目下我軍は三方より敵を拒馬河岸の一村に壓迫、壯烈な殲滅戰が展開されてゐる、かゝる戰果はわが戰史上空前の事で世界人の驚嘆の的となつてゐる

△

【北平發】啄州の我空襲部隊は十八日早朝敵の裝甲列車を奪つて敵中を驀進、平漢線沿線に群る敵に對し多大の損害を與へつゝ敵戰線の重要據点高碑店に突込み、見事に一番乘りの凱歌を擧げた、これより先敵は退却に際し○○河鉄橋を破壞しわが裝甲列車の進擊を拒んだが勇敢なる我が○○部隊は○○河を渡つて敵軍の裝甲列車を乘取りこれを運轉して南進、鉄路附近に群る敗殘兵を蹂み潰しつゝ驀進、わが空襲と相まつて炎々と大火災を起し、ある啄縣を右に見て遂に交通上の要衝高碑店一番乘に成功したものであつたが○○部隊の一大殊勳である、これがため敵は易縣方面の退路を斷たれいまや潰走中の敵兵過半數の全滅は目前に迫つた

△

【北平發】平漢線南方高地を進んだ○○部隊の總攻擊に於て終始最前線に出で最も敵を惱ましたのは戰車隊であつた、敵兵は戰車を極度に恐れて崩れ立ちわが方は敵の陣地を踏み潰して行く、その戰車に歩兵が輕々として纏き房山東北側の高地、馬も登れぬ險嶮を縫く間に陥入れ更に房山城を攻撃せんとして十六日午前十時出各莊に着きその陣地に機關銃、迫擊砲を据えて頑强に抵抗する敵を撃破、敵の遺棄した無數の死體を踏み起えて突進又突進、十六日夕刻に至り流石の敵も次第に後退をはじめたが次々に後方陣地から反撃を試みたので無敵皇軍は眞正面からこれを撃ち碎きつゝ、進軍を續けるのであつた

△

【大同發】中央長城線を越えて進軍中の○○軍先發隊は十七日午後一時頃强に抵抗する敵を撃滅、豐鎭を完全に占領した、豐鎭は平綏線中部の要地にして安遠第一の要衝たる平池泉の前線基地である

△

【津浦線青縣發】津浦線最後のたのみとする滄州陣地の整備を急いでゐる敵は滄州附近部落民を徴發し一日一錢といふ僅かな錢で奴隷の如く酷使して滄州、石家莊を繋ぐ滄石鉄道線に沿ひ砂利を運ばし陣地構築に人童となつてゐる、この滄州陣地に向つて中央軍の大部隊がどし〳〵輸送されてゐるとの情報があつた

△

【東京發】○○艦上にて伊佐特派員發帝國海軍の支那沿岸航行遮斷視察のため十三日上海發軍艦○○に便乘荒大を働いて出港、途中○○基地にて万般の準備を整へ一路南下中、今まで遭ひたるは僅かに第三國旗を掲げ得る汽船のみにて、支那船船は一隻も姿を見せず、わが制海權が完全に行はれ襲支膺懲の目的は遺憾なく遂行されてゐる、これ一に我が海軍○○部隊が盡夜を分たず東奔西走して監視に當つてゐる結果であつて殆んど世間に傳はつて居らぬがその苦勞の程は或る意味から云へば上海方面の華々しき戰闘以上のものがあるのを痛感する

【十八日電報】

【北平發】啄州を三方より包圍漸次敵を西方に追撃中である○○部隊は十八日早朝敵の裝甲列車を奪つて敵中を驀進、平漢線沿線に群る敵に對し多大の損害を與へつゝ敵戰線の重要據点高碑店に突込み、見事に一番乘りの凱歌を擧げた、これより先敵は退却に際し○○河鉄橋を破壞しわが裝甲列車の進擊を拒んだが勇敢なる我が○○部隊は○○河を渡つて敵軍の裝甲列車を乘取りこれを運轉して南進、鉄路附近に群る敗殘兵を蹂み潰しつゝ驀進、わが空襲と相まつて炎々と大火災を起し、ある啄縣を右に見て遂に交通上の要衝高碑店一番乘に成功したものであつたが○○部隊の一大殊勳である、これがため敵は易縣方面の退路を斷たれいまや潰走中の敵兵過半數の全滅は目前に迫つた

△

【北平發】平漢線南方高地を進んだ○○部隊の總攻擊に於て終始最前線に出で最も敵を惱ましたのは戰車隊であつた、敵兵は戰車を極度に恐れて崩れ立ちわが方は敵の陣地を踏み潰して行く、その戰車に歩兵が輕々として纏き房山東北側の高地、馬も登れぬ險嶮を縫く間に陥入れ更に房山城を攻撃せんとして十六日午前十時出各莊に着きその陣地に機關銃、迫擊砲を据えて頑强に抵抗する敵を撃破、敵の遺棄した無數の死體を踏み起えて突進又突進、十六日夕刻に至り流石の敵も次第に後退をはじめたが次々に後方陣地から反撃を試みたので無敵皇軍は眞正面からこれを撃ち碎きつゝ、進軍を續けるのであつた

△

【大同發】中央長城線を越えて進軍中の○○軍先發隊は十七日午後一時頃强に抵抗する敵を撃滅、豐鎭を完全に占領した、豐鎭は平綏線中部の要地にして安遠第一の要衝たる平池泉の前線基地である

△

【津浦線青縣發】津浦線最後のたのみとする滄州陣地の整備を急いでゐる敵は滄州附近部落民を徴發し一日一錢といふ僅かな錢で奴隷の如く酷使して滄州、石家莊を繋ぐ滄石鉄道線に沿ひ砂利を運ばし陣地構築に人童となつてゐる、この滄州陣地に向つて中央軍の大部隊がどし〳〵輸送されてゐるとの情報があつた

△

【東京發】○○艦上にて伊佐特派員發帝國海軍の支那沿岸航行遮斷視察のため十三日上海發軍艦○○に便乘荒大を働いて出港、途中○○基地にて万般の準備を整へ一路南下中、今まで遭ひたるは僅かに第三國旗を掲げ得る汽船のみにて、支那船船は一隻も姿を見せず、わが制海權が完全に行はれ襲支膺懲の目的は遺憾なく遂行されてゐる、これ一に我が海軍○○部隊が盡夜を分たず東奔西走して監視に當つてゐる結果であつて殆んど世間に傳はつて居らぬがその苦勞の程は或る意味から云へば上海方面の華々しき戰闘以上のものがあるのを痛感する

【上海發】今朝基地を勇躍出動した和田隊長の率ゐるわが海軍空の勇士奇は○

我が北支從軍記者の前線視察の記

百三十度の炎天下に樹蔭無きアンペラの本部

【北平發】我が前線部隊を慰問し、あはよくば宛平城潛伏を敢行して支那軍の撤退狀況を視察しやうと、記者は武官室の浦野大尉と同行して燒けつく炎天下に自動車を驅つた、半開きの廣安門をやつと拔け出ると、高粱畑の中を宛平城に眞直に通ずる坦々たる大道だがところどころに散在する小部落には戰ひ終つた後の平和な空氣が見へる

大　井村は澁江○隊の駐屯地だ、これから左折すれば豐臺に通ずる、澁江隊長を古ぼけた支那民家に訪ひ、さらに前線に向ふ、二十日の砲擊に牟田口部隊の本部となつて居た西五里店を過ぎると、間もなく一文字山だ、平漢線引込線のガード下で車を捨て、三重野○隊を訪ふ、一文山はガードの右手に起伏し名の如く南北に一線を引いた小高い砂丘である、草さへも乏しく、むろん木蔭もない砂丘を背にして、アンペラ圍ひの○隊本部がある、アチコチに見へるアンペラ小屋の中には上半身裸の兵隊、さすが

百　三十度の炎天にうだつて居る、三重野○隊長を慰問した後、同隊長の案内で前線陣地を見る、一文字山の一番高い所には壕が堀りめぐらされて居るが壕の最西端に立つて、見へるは見へるはそれが眼下僅かに四五百メートルの前方に横たはる宛平城の城壁だ、二十日の我が軍の砲擊で中央の樓門は無殘に破壞され、左手の望樓は僅かに土臺を殘して吹ッ飛んで居る、城壁にはまた蜂の巣のような砲彈の穴だらけ、隊長の望遠鏡を借りて望むとその城壁の上に二、三の赤ちやけた傘が見へるそれは支那監視兵が暑さを避けるためにさして居る日傘だこちらから

展　望する姿を認めたものか、その數がたちまち二、三十に增へた、まるで城壁の上に曼珠沙華が咲いたやうだ、いつ狙ひ射ちされるかわからぬような不安を感じる、左手を望むと遠く西山々麓の八寶山から衝門口の森にかこまれた部隊が見へる、事變最初の激戰地龍王廟の赤い壁も指呼の間にあり、目の下の平漢線には電線工夫が修理を急いで居る宛平城右手遙かに連なる山は長辛店の背後の山だ、三重野○隊長の話によると、宛平城內の支那軍は我が方への約諾に拘はらずまだ撤退しない

夜　間は必ず發砲し來り、二十四日の早曉にも相當部隊の支那兵が一文字山の下まで進出して來たと云ふ、こんな具合で支那軍は協定を實行するどころか依然抗日意識に燃えて居ると見るの外はない、特務機關附きの寺平大尉も二十四日宛平城內に入り支那軍の撤退狀況を視察する豫定であつたが、依然支那兵は充滿し、地雷敷設で通行危險、遂に延期された、我れも止むなく宛平城を眼前に見つ、我が前線より一歩も出でられず、引き返す外はなかつた、更に飛行機でコースを西へ取つたのだ『あれが北平』と

飛　行士が紙片に書いて說明して呉れたと思ふともう我々は北平城南門附近の上空にあつた、コースを變へて朝陽門を左に見て城壁をぐるりと廻る、今度は城壁の北側に出で、西直門驛上空經由、森の都の北平城をはなれて万壽山へ、澄み切つた園の湖水が渴き切つた記者の咽喉を鳴らした飛行機が今度は機首を南に轉じた、と操縱士が左下の山が八寶山と書いた紙片を記者團に渡して呉れた、ところどころ禿げて赤肌をさらした山に敵の壕が見えてゐる、支那兵は居ないかと望遠鏡を出してしきりにレンズを通して敵影を搜すが草蔭、木蔭に姿を消して影一つだに見えず、豐臺を過ぎて飛行機は早くも宛平城の上空に出た

赤　い四角な小さな城の町、皷樓は無殘にも先日の我が軍の攻擊に破れ、昔のおもかげは無く、僅かに城壁の壞れたあとが見られるのみだ、その傍らの城壁も大きく打ち破られて居り敵軍が俄かに積んだ土嚢もつと緊張させた、黃色い太い線は永定河だなと足下に目を移すと飛行機はもう間題の盧溝橋の眞上に來てしまつた、三家店の附近にかかると五、六臺のバスの列を見た、敵軍は鐵道のみでなく自動車でも引揚げつつあるらしい、敵兵がうんと見へるであらうと期待して居た吾等にはいささかさびしい觀察であつた、天津○○飛行場歸着は午前十一時五分。

……◇……◇……

立義殉公に終始した黑龍會の內田氏逝く

青年は之を讀んで奮起せよ

【東京發】東亞の天地暗雲低迷の折柄七月二十六日黑龍會主幹內田良平氏は午後十一時四十五分世田ケ谷の自邸に病沒した、享年六十四歲、葬儀は卅一日青山齊場に於て神式により執行された頭山滿翁を始め近衛首相以下各閣僚、その他朝野の名士約三千名參列し故人の偉德をしのばしめる盛儀であつた

內田良平氏略歷

明治七年二月十一日、內田良五郎の三男として、福岡市大圓寺町に生る、夙に嚴格なる士道敎育を受け、各般の武道に秀づ十七歲の時早くも大陸經營に着眼して支那に渡る二十一歲の時朝鮮に入り天佑俠を組織し東學黨を助けて、日清亂爭の端緒を作り、其の後三國干涉に憤激して三十年（二十四歲）西比利亞を橫斷して露都に至り、實地に露國事情を探り、露國が革命の危機を孕みつゝあるを看取し、歸國後同憂の士と共に黑龍會、日露協會を創立『露西亞』國論』を著はし、露西亞の決して怖るゝに足らざる事を强調し、赤露學校を興し露國崩壞の主戰論を唱へ、滿洲問題の基根を培へり。其の後ねて氣脈を通じ居る孫文、宋敎仁黃興等を助けて、支那革命政府成るやその外交顧問を囑せられ、又ヒリツピンの獨立運動をも支援す三十八年十二月韓國統監府を設立さるや伊藤博文公の招聘により幕僚となり、一方一進會の顧問として日韓合併を主唱し其の完成に努力せり。又ワシントン、ロンドン屈辱海軍條約の締結に反對したるを始め、大正十四年には個人主義背選は我が家族制度を破壞するものとして、家長選擧法を主張する純正普選運動を捲き起して猛運動を行ひたるを始め、國体明徵達成のため、あらゆる運動を行ひ來りしが、特に滿洲問題、支那、ロシヤ問題に對しては、その率ゆる黑龍會、生產黨、其他關係團体を動員して不斷に果敢なる活動をつゞけ來る傍ら養正義塾長として青年子弟の敎育に任じ來れり。著書は露西亞亡國論、武道極意、皇國史談、黑龍潤入歌集、天聞論國体本義、聖訓謹解、支那觀、支那改造論、對外國是樹立の急務、杜鵑錄、國意破壞の天皇機關說、滿國動亂の機等の無數の著作あり。

明治史の裏面を飾る金字塔其逸話

山東還附に奮起露國へ先驅

明治二十七年朝鮮の敎治が極度に紊れて東學黨の蜂起した時、天佑俠を組織して其の間に活躍した日本青年志士の事歷は余り多く世に傳はつてゐないが、これこそ明治史の裏面を飾る金字塔として不朽の光を放つものと思ふ。

其の頃內田良平、鈴木天眼、武田範之、大崎正吉、千葉久之助、井上藤三郎、西脇榮助、本間九介、吉倉汪聖、田中恃郎、白水、時澤大久保、日下其他青年血氣の士がそれこそ奇想天外の妙策を立て、大活躍をなしたのであるが、此の一行の前進中の出來事――前記の內、鈴木、內田、武田、千葉、井上、西脇の六士は先發隊の同志からの情報を待つ間難緒山麓にある一小寺に足を留め、徒然の日を送りつつ、あつたが、旅費も既に大方盡きたので、同評議の末、豫て山上の寺にあつた頃寺僧が鈴木天眼所有の立派な短刀を頻りに欲しがつてゐたから、それを賣りつけて旅費を作ることに決し

明日は又山に上らうと天眼が得意の易を立て、占つたところ其の日は大凶といふ針が出たので更に一日延期することゝなつた

然るに內田はその大凶といふ日であるのも意に介せず、山上の新元寺から一里許り距つた敬大といふ村落に市が立つと聞いて、西脇井上の兩人を伴ひ、何等の武器をも携へずにぶらりと出掛けて行つた敬天では豫て東學院に與みしてゐた日本人が多數雞籠山に籠つてゐると聞き、彼等が山から出て來たら打ち殺すと待つてゐた際であつたから、內田か市場に行つて二三の品物を買ひ調へ、最後に雞卵を買はうとしてゐると、忽報してくれ、俺のことは心配せずに早く駈け出せ」と追ひ來り、內田が氣付いて振返つた時には既に數人朝鮮人が井上を捕へて乱打してゐた。

內田はそれと見るや直ちに馳せ寄つて井上を捕へてゐる朝鮮人に飛びつき襟を一絞め絞めて押し倒した。井上はそれを機會に早くも身を隱したが、多數の朝鮮人は內田一人を目がけて襲ひかゝつた內田は得意の柔道に依つて二三人を當て倒し、もと來た裏手の廣場に逃れ出て見ると途か彼方に西脇が逃げて行つてゐる後姿が見えた。

しかし井上の續く姿が見えないので生死の程も氣遣はれるから、それを見付けて助ければならぬと決心し捲き起して猛運動を行ひたるを始め、國体明徵達成のため、あらゆる運動を行ひ來りしが、特に滿洲問題、支那、ロシヤ問題に對しては、その率ゆる黑龍會、生產黨、其他關係團体を動員して不斷に果敢なる活動をつゞけ來る傍ら養正義塾長として青年子弟の敎育に任じ來れり。著書は露西亞亡國論、武道極意、皇國史談、黑龍潤入歌集、天聞論國体本義、聖訓謹解、支那觀、支那改造論、對外國是樹立の急務、杜鵑錄、國意破壞の天皇機關說、滿國動亂の機等の無數の著作あり。

爆彈を吾身につけ敵城壁を爆破

流石の我が將士も息を呑む

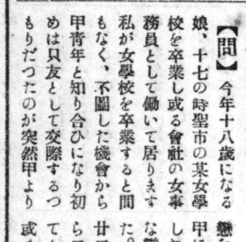
【天津發）南苑攻擊に參加し親しくその攻擊戰を見た堀家○○參謀は前線から歸來したが、此の激戰に皇軍將士が發揮した數々の戰場美談を齎らした二十九日朝南雲、鯉登兩部隊は高粱畑を利用して南苑の支那兵營を南より西北にかけて包圍し、午前八時三十分西北角に到着するや敵の猛烈な十字火を浴び早くも激戰となつた、敵は二十尺にも達する城壁によつて地上を進む我が軍を狙つて鈎瓶擊ちに放つので、城壁近く迫つた我が軍もこゝに阻まれて非常なる苦戰に陷つた一刻も速やかに此の城壁を破壞して突擊路を作らねばならぬ此の時原部隊の中から敢然とこの重大任務を身を以て敢行しやうと躍り出た二人の將校があつた、伊藤、千葉兩部隊長だ

見　れば兩氏は爆彈を身につけたまゝ、十字火にさらされてゐる城壁外の塹壕に勇躍飛び込んだ、これを見た敵は小銃、拳銃を兩氏目がけて一齊乱射したが決死の兩勇士は一目もくれず阿修羅の如く塹壕を越へ、切り立つたやうな城壁を登り始めた、驚く敵、狂乱の如き銃火だが兩勇士は家守の如く城壁にしがみついて攀ぢ登つて行く、砲火が轟く中に流石の我が將士も息を呑んだ、見る間に兩勇士は城壁に爆藥を裝塡して点火した途端、兩勇士は相次いで城壁からどつとばかりに倒れ落ちた、敵の集注火にやられたのだ、しかしその時轟然たる

音　響と共に城壁は一瞬にして爆破され、この兩勇士によつて突擊路は開かれたのだ、機を逸せず茂木部隊はこゝから一齊に敵の兵營に突擊して遂に占領したのであつた

――北西線便り――

去る九日五日グワラペス市を距る一新突の地点を鈴木某が通りかゝつたところ突如現はれた一半黑のために無惨にも十數ケ所の手傷を受けた上所持してゐた五百五十ミルの金も掠奪された、幸ひ命に別條はなかつたが、犯人は直ちに逃走姿を晦ました。



處女を奪はれ愛人との婚姻になやむ

【問】今年十八歲になる娘、十七の時聖市の某女學校を卒業し或る會社の女事務員として働いて居ります。私が女學校を卒業すると間もなく、不圖した機會から甲青年と知り合ひになり初めは只友として交際するつもりだつたのが突然甲より戀を打明けられました私も甲には好感を持つて居りましたのですが、それでも悲しいかな甲にも知れ私は甲に合せる顏がなくなりました。けれども甲は快好く許したらよいので御座いませうか、私の姉はそんな事に是非とも許して呉れませんが、兩親はさつぱり理解をもつて呉れず反つて二人の仲をさかうとしてゐるのでございます。甲に氣の毒だといつて結婚を許して呉れません、それかと言つて私は不良青年の從兄と結婚する意思は毛頭ありません、それよりも私を一番困らせるのは甲の親が昔氣質の人で、そんな不義をする人は嫁に貰へないと固く斷つて參つたのでございます。

私は每日甲になぐさめられておりますが、それでも悲しさに耐へられません。

甲の親御さんが甲に知れたのです。――その夜のことです、甲の母が私の家に泊ることになりました。……その夜半何物かに驚いて不圖眼をさましました時は既に遲かつ

Redacção e Administração
Rua Pires da Motta, 381 S.Paulo
Tel.7-1614

NAMBEI SHIMPO

Director J.V. França　Proprietario Paulo Iquenaga

S. Paulo, 23 de Setembro de 1937

繞る解け難の謎か？人々か？

悟道軒圓玉（作）
丸尾至陽（畫）

一六　落合つた二人

女『大層親分お早うございますね』と云はれて庄七がアハハと笑つたが

庄『女房がやかましいからな、御門切れに歸ると御台所さまの御機嫌がよくねえ、勘定は借りて行くぜ』

女『バイ畏まりました、お靜かに行らつしやいまし』

庄『また來るよ、あゝ醉つた醉つた』

といひ乍ら二人の子分と共に二階を下りる

庄『オイ清兄イ、今こゝを出て行つた客は何つちへ行つたえ』

聞かれた下足番の清公が『木挽町一丁目の方へお出でになりましたよ、何んだか急いでゐましたが』

庄『そうか、少し聞くことがあるんだ』

三人は松田を出て一丁目の方を指して行く、三島三郎は木挽町の川を前にした堀繊部疋の屋敷に行く、庄七は子分に耳打をして二人を行手にまわし三郎の來るのを待ち受けた、三島はかくとは知らず木挽町一丁目の川岸まで來たがもうこの時は夜の五ツ半かれこれ四ツあの邊は夜になると往來する人も至つて少い、すると向ふから駆けて來た男が泥捧と言ひながら三郎にどしんと突あたつた三島は一足あと、さがつて

三『これ何をする』

○『旦那助けてください』

し追剥に出會ひました、わつちを追かけて來ます』といつたがパツと飛びついて三郎の脇差を鞘ごと引き拔いてさつと投げた、これと同時に

『御用だ、神妙にしろ』

と後から一人組みついた三郎は組まして置いて兩足をグツとひろげた、これがために組んでゐた手がとけてズル〳〵と前へ体が延びた三郎はスルリとすり拔け足をあげて其奴の腰を蹴るとバツタリ仆れた

『御用だ』と丈も左右から組付くを身をかはしてこれをさけ衣類の襟を引つかんで二人を引き立てたが大力な三郎、一振ふつて前の川へドブーンと投げ込みそれに落ちてゐた脇差をひろひ上げ腰にしてそこを逃れやうとすると最初の仆れた一人が身を起して三郎の足をおさへ付け『御用だ』といふをボーンと顔を蹴つたウームといつたが此奴は氣絶した、その間に三郎はバタ〳〵と駆け行き堀の屋敷のうしろにまわつたがこゝには築地塀がある、折しも暗を縫つてこゝへ忍んで來た一人これも築地塀の前へ佇んだがやがてスル〳〵と登つて門内に入つた、續いて三郎も塀を越えて屋敷内へとび込むと

○『誰だ、何者だ』

と先に入つたその人が咎めた

三『貴公は吉野ではないか』

○『オ、三島か、その許とは知らなんだ』

三『油斷はならぬぞ、今この先で手先に出會つた、其奴等を川に投げ込み打ち仆してこれへ參つたが吾々に目をつけてゐるぞ』

政『そうか、もう手がまわつたか』

三『嚴樣にお目通りの上ヒユースケンを刺し止めたことを申上げねばならぬ』

政『突然御殿へ踏み込むこともなるまい、此方へ來なさい』

と二人は打揃つて中の口に來た、これを内玄關といふ

政『誰方か居られるか』

聲をかけるとそれへ出て來たは中小姓の梅村金彌

金『これは御用人樣でございますか、お、三島樣もお出になりましたか、これへお通り下さい』

政『嚴樣にお目通りを致して申上げることがござる二人が來た事をお取次下さい—これ梅村何うした泣いて居るではないか』

金『嚴樣にお會なされたとてお言葉を頂くことはなりますまい』

これを聞いて二人は顔と顔を見合せた。

人の壽命が知れる生命線

各線の名前がチヤンと憶へられましたら順序として生命線の觀察からとりかゝりませう

この生命線は大きく弓形に張り出て親指の根元の肉附の豐なほど仕合せが多いのですが生命線の下の所にはつきりと強い支線のある人は、功名があつてぢつとして居られない性分だから生れ故郷に緣が遠いのですこれから氣をつけてゐてごらんなさい、郷里を飛び出して都市生活をしてゐる人とか官吏生活できのふは西けふは東の生活をしてゐる方などはこの生命線の下方が二つにも三つにも別れて居りますから

顔といはず手といはずすべての線は單調ではつきりしてゐるのが理想でありまして途中でそれたり乱れたりしてゐるのはそれだけのきわりがあります

生命線、それが途中で切れてゐるのは警戒を要する、病にかゝるから不思議でせう、尤も同じ切れて居つてもそれが重なり合つて切れてゐる方は生命に別條はありませんけれどもこれ亦重い病氣に冒されるものと見て差支へはありません

又鎖狀や波狀形でつながつてゐる人であつたら何かの事があつて一生病氣で過さねばなりませぬ運命を背負はされ線の中に破線が現れてゐる人も慢性の病氣にかゝるのであります

斯うして一本の線でもその形狀によつていろ〳〵に判斷されるのでありますが生命線を幾筋かの細線で横切つてゐる人は生來至つて心配性の人で些細な事も氣にかゝつて堪らずよく〳〵案じばかり重ねて暮す人であります、ヒステリー婦人の人相などを見ると、全部こゝ相で、小じわがなくはつきりした筋ばかりが出てゐる人に憂鬱な人はありません

人の運命と性格

（面相手相で判る）

損ふ場合が多いのであります。

□……食物は云ふまでもなく、身體の根本ものですが、また同時に身體を害するものだといふ事を先づ考へて下さい。

□……なんでも榮養のあるものをたゞ食べさへすればそれで榮養の補ひがつくものと考へるのは大變な誤りです。食べたゞけでは決して榮養にはならない、それを完全に消化してはじめて身體に養ひになるのです、つまり食物の咀嚼を完全にさせることは完全な消化をさせることになるのであります。常に胃腸の惡い人は忽ち恢復するといふのがこの完全咀嚼の功能です、完全咀嚼の功德として次に六ケ條をあげてみませう。

一、食事をしない人はないよく噛んで食べると、食事が即ち運動になります三度〳〵結構な運動をしてゐるわけになります

二、食物をよく噛んで食べると、いま、で四杯の人は三杯で十分の活動が出來ます、ですから食べすぎといふことがなくなるのでそれから起る病氣を避けることが出來ます

三、食物をおいしく食べることが出來ます、これは一番人事なことです、ほんたうの食物のうまさはよく〳〵噛みしめてみなければわかりません、米の味でもよく噛みしめてこそ、はじめて眞の味がわかります

四、その結果として、私共は粗食主義を實行することになります、この粗食といふのはなるべく自然のまゝで粗野な食物といふことです、うはべだけの附味しか持たない、所謂うまいものは、完全咀嚼には堪へられません、生のものほど食物は深い味を持つてゐます、この粗食こそ眞に血となり肉となるのです

五、だれでもいつの間にか丈夫になり、小食、粗食で、食事は一そうたのしくなります、一家揃つて健康で、食卓を圍む樂しさに比べる愉快はありません

六、よく噛むことは、何でもないやうで實は一口入れたら噛みながら、心の中で一、二、三と少くも三十五回の數をかぞへてのみ下すやうにして、これを習慣にすると、よく噛まずにはゐられなくなります

□……以上の完全咀嚼は別家中そろつて笑ひながらする食事がなぜおいしいか？何か考へ事に熱中して居るときなど、なぜ消化不良をおこしたりするか？

食物

の消化のいゝ、惡いは消化液分びつの多いすくないに關係してゐるがこの消化液分びつは腦神經とか交感神經の作用によるもので、私達の感ずる好惡、快不快、寒暑などの感情、感覺かそれ等の神經の作用をうながすのです。

私達の趣味嗜好は決して生れつきのものでなく習慣によつて出來るもので、このことは條件反射といふ現論で明かです、これによると私達の活動の一切は一定の刺戟とか感覺の反射であるとされるので毎朝みそ汁やたくあんを必要とするのも其理窟で何年とゝなくて食べてゐるとそれがなくては食事が出來なくなるのです、このやうにして嗜好品なども各國の事情の異なるに相應してきまるのです

消化

液の分びつをうながすものは肉汁、胡椒辛子、貝柱、丁字等ですが麥こがしなども、別の意味で分びつをうながすものも分びつをうながさないものの附味しか持たない、所謂うまいものは、完全咀嚼には堪へられません、生のものほど食物は深い味を持つてゐます、この粗食こそ眞に血となり肉となるのです

五、だれでもいつの間にかおいて隔たりが出來て、話し相手にならなくなつて來て、遂には

『どうせ自分は夫の相手に不足だから嫌はれて來る』

と、此の一言は画に若き妻たるもの、能く心得べき事である

夫は常に外部にて、いろ〳〵な世間と接觸して居る關係上、妻よりも、どうしても、常識が發達して居る處が、一度結婚すると、家庭に閉ぢ籠り勝ちで自然と世間の事に疎くなる

その結果主人とは、常識に反して劣たる人は學校を卒業して實業に就ても又書物と離れる事はないから、妻となりては成るべく新しい書籍に親しまねば、夫との教育程度がいよ〳〵懸隔して、ズツト夫の智識に對して劣つて來るから、此の點ヨクヽ注意をせねばならない

食事は笑ひながら……樂しくするが一番

◇……精神が安定せぬと食慾がない……◇

畫食

の際試みた事があつたが、音樂をやられると注意がそつちへ行つてしまつて消化不良になるかやめてくれとの投書が來たとの事でしたが、その後いつか中止になつてしまひました食事の一番樂しいのは、適時の空腹と平靜な精神狀態と嗜好物が一致したときです、あまりうれしいとか樂しい場合など精神の平靜をやぶるので食慾がなくなります、また秋の夜長を利用してする讀書や遊戯なども度をすごすとやはり

食慾

が減退する、スポーツなども熱中して過度なれば食慾は減退、神經衰弱となります、食慾を保つためには嗜好物を選んで適れうをとる事と精神狀態を安定さす事が重大ですのは歐米の習慣であつていろ〳〵ちがつた感情を音樂によつて一樣になごやかにしたら食事がおいしく出來ようとの趣向です、わが國でも前にAKだつたかで

仲

のよい二人の寫眞は全米の新聞に掲げられ北支事變の最中に友邦親善振りを發揮してゐるが二人は去る三日ロングアイランドの故ローズベルト大統領（セオドア）未亡人邸に招待され、ロ翁の孫に當るエデス　ダーヒー夫人に非常な歡待を受けたといふ。某英字新聞は特に社説を掲げて二人の親密さをたゝへ

新聞の第一ページに日支交亂のニュースが大きく掲げられて世界が憂ひの眼を東方に向けてゐる時相爭ふ二つの國を代表した二人の少女が互に手を取り合つて人類相互扶助の精神を象徴することは如何にも喜ばしいことであると言つてゐる。

國境を超えた友愛美

戰爭をよそに

【ニューヨーク發】今週から當地に開會される國際少女スカウト大會に日本人の少女と支那人の少女が互に手をつないで仲良く出席するといふ國境を越えた友愛美談が北支事變の最中として特に米人達を感激させてゐる——この二人は東京の櫻井スミ子さんと北平の張樞明嬢でどちらも外人相手のガイド嬢（旅行案内）であるが今度世界少女スカウト大會に參加すべく互に手を携へて太平洋を渡りニューヨークへ到着した。

にむづかしいことでも金のかゝることでもなく又時間だつてほんのわづかを費せば健康へのの道を行くことが出來るのですからどなたもこれを是非共實行していたゞきたいものであります。

男女相愛の秘訣傳授

夫を遇する妻たる者の秘策傳授……【十六】

良妻賢婦は夫を斯く遇する事

ある高等女學校で卒業式の時に校長から卒業生への贈り物として、新しい智識を吹き込んだ家庭用の書籍を渡した、その時の訓示に

今までは學校で、書物を讀んで居たが、一度妻となると自然と書物に親しむ機會が少くなるそれに

誌などは、必ず一通り眼を通して、ラジオがあれば、ニュースや婦人講座などもよく〳〵注意して聽くやうにこゝろがけねばならない、新時代に生くる夫の心を滿足さする爲には自分も又常に新時代から後れぬやうに心がけて、新しい知識の涵養を怠つてはならない若き妻たるもの此の心がけを忘れてはならない

（つゞく）

聲明書

本會ハ本月十四、十五日兩日ニ亘リ總領事館指名ノ各地日本人會代表者會議ノ決議ニヨリ設立セラレタリト稱スル『ブラジル中央日本人會』ヲ左記ノ理由ニヨリ承認セズ

尙本會ノ目的トスル處ハ全伯各地日本人會ニ對シ漏レナク招集狀ヲ發シ而カモ決議權ヲ與ヘラレタル代表者ノ出席ニヨリ結成セラレタル全伯聯合日本人會ノ設立ヲ希望スルモノナリ

左記

一、今次ノ代表者會議參列者ハ全伯四百五十以上ノ日本人會中僅ニ四十余名ニ限リ而カモ是等ハ總領事館ノ指名ニヨリ集會シタルモノニシテ全伯各地日本人會ヲ代表セルモノト認ムル能ハズ

二、總領事館ノ通牒ニヨレバ今次ノ會合ハ『意見ノ交換』トアルニ中途ニシテ創立總會ニ變更シタルハ會議開催ノ當初ノ趣旨ヲ没却シ且ツ越權ノ決議ト認ム

以上

一九三七年九月十八日

聖市日本人會

ブラジルの家庭醫書
醫學博士　高岡專太郎著
四六版九百八十餘頁金文字函入布裝釘美本　三色版二　銅版五　挿繪二百餘個【附錄】別冊
發行所　互生會
發賣所　東洋書店
サンパウロ市　郵函三一三八
定價三十ミル
送料一ミル

診察時間　午前九時ヨリ午後五時マデ
北大醫學士
今田求
リンス市
電話　一四三
郵函　二〇三

歯科醫
寶臣衛
アラサツーバ市
郵函二〇八

どなたも御利用下さい
◉救世軍の身の上相談部
手紙の宛名はCP三四四
三返信を要するものには郵便切手封入の事
◉救世軍の無料職業紹介
日本救世軍發行のときのこえ一部五〇〇レース
毎號山室中將執筆一ケ年購讀料拾貳ミル
聖市ピニエイロス區ジソンデアス街一
伯國救世軍日本人部

ソルベツテとビリヤール
御休憩には是非
バール　セントラルへ
ブロミツソン町
青木榮雄
青木力太

聖市料亭組合
可祝
うめのや　コンデドビニヤール　一〇八　電話二—八四三〇
富美の家　コンデデサルゼーダス　七九　電話二—七七二二
青柳　タバチンゲーラ　八　電話二—一九四八
菊水　タバチンゲーラ　一二　電話二—一七三一
富田家　コンセレイロフルタード　一三五　電話二—六七六七
コンセレイロフルタード　四二　電話二—〇一四九

法律顧問・呼寄・帰化・請願書
聖市カルモ街一八番五階七三—七五番
電話二—四三五八　郵函三七三〇番
公証人
辯護士
座喜味盛德

薄利多賣
品質本位
◇美味しくて
劃の利くお醬油
黑島印醬油
釀造人　黑島伊平治
北西線フロミツソン驛前